

第6回「サービス・ラーニング全国フォーラム」のご案内

テーマ：深い学びと関係性の変容を促すパートナーシップとは

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大から3年目の春を迎えようとしています。わたしたちの生活も、社会における体験を基盤に成立するサービス・ラーニングも、コロナ禍において生じた大きな影響を受け止めながら、前に進もうとしています。そうしたなか、以前よりあった社会課題やコロナ禍で新たに出てきた社会課題に向き合うためにも、制限された環境のなかでサービス・ラーニングに携わる人たちに深い学びを促すためにも、パートナーシップは一層重要なものとなっています。昨年の第5回全国フォーラムでは、「学びの深まりを促すためにパートナーシップ」をテーマとしました。そこで今回は、サービス・ラーニングの活動において学びや気づきをもたらす変化、そして活動により変質する関係性、関係性をもたらす更なる変容など、さまざまな変容についても考えていきたいと思い、第6回全国フォーラムでは「深い学びと関係性の変容を促すパートナーシップとは」をテーマといたしました。

シンポジウムでは、「パートナーシップに基づきサービス・ラーニングをどのように実践すべきか？ ～SOFARモデルを参照にして～」をテーマとしました。サービス・ラーニングを実践するにあたり、「パートナーシップ」は重要な観点となります。しかし、一口にパートナーシップと言っても、何と何がどのようなパートナーシップを結ぶのかに関しては依然として曖昧なままであり、その曖昧さがサービス・ラーニングの普及を妨げる原因の一つとなっています。本シンポジウムで着目する「SOFARモデル」は、パートナーシップの様相を体系的に捉えるための枠組みです。SOFARモデルでは、S:Students、O:Organization、F:Faculty、A:Administrators、R:Residentsの5つのアクターが想定され、合計で10からなるそれぞれの関係性が望ましくなることで、結果的に、サービス・ラーニング実践も意義ある取り組みになると考えます。3名の登壇者にはそれぞれ、小学校、中学・高校、大学の実践を取り上げてもらい、SOFARモデルからそれぞれの実践がどのように評価されるかをご発表いただきます。その上で、参会者の間で、望ましいサービス・ラーニング実践のあり方を、パートナーシップの観点から再検討いただくことを、シンポジウムのねらいとします。

シンポジウムに続いて、午後には3つの分科会を設けました。第1分科会は「コロナ禍のサービス・ラーニングから得た気づき」というテーマです。コロナ禍で多くの大学では、サービス・ラーニングの実践のあり方を変更してきました。そうした新たな試みや取り組みは、必ずしも「学びを止めない」だけでなく、学びなおしや新たな発見を促すものでした。分科会では、学内、国内、海外と3つのサービス・ラーニングのフィールドに分けて、それぞれの取り組みのなかで、学生が、教員が、職員が得られた気づきと変容について考えていきます。

第2分科会は、シンポジウムの内容を受けて「初等・中等教育におけるサービス・ラーニングの可能性」とし、サービス・ラーニングを意識しながら授業づくりを進め、授業実践を展開している初等・中等教育の教員にご登壇いただき、自らの実践を報告していただきます。なぜサービス・ラーニングに注目したのか、サービス・ラーニングを意識することで従来にないどのような実践が生み出されるのか、そして、現在直面している課題は何で、それをどのように乗り越えようとしているか。報告の後のラウンドテーブルではこれらのことを伺いながら、参会者には、初等・中等教育におけるサービス・ラーニングの可能性についての思索を深めてもらうことを分科会のねらいとしています。

第3分科会は、「実践・研究交流」といたします。会員によるサービス・ラーニングの枠組みや知恵の共有、活発な意見交換を通して、日本におけるサービス・ラーニングの実践・研究の発展を期していきます。いずれの分科会においても、みなさまが多く発言し、互いの実践や考えについて共有できるような機会にしていけたらと存じます。

オンライン開催という依然として制限された環境ではありますが、みなさまのご参加を、心よりお待ち申し上げます。

【開催校】文教大学：文教大学は2021年にあだちキャンパスを開設し、地域における教育機関の使命を担うべく、新たにさまざまな地域団体や関係機関とパートナーシップを構築しようと模索しています。

日 時： 2022年5月22日(日)9:30～16:30(終了後17:00まで交流会)

会 場： Zoomによるオンライン開催

主 催： 日本サービス・ラーニング・ネットワーク

開 催 校： 文教大学

申込方法： 下記Web申込フォーム、QRコードからお申込みください。

<https://forms.gle/qHzZ9N7EQtNc4gug8>

参加費： JSLN会員 無料、一般非会員(有職者) 2,000円、大学生・大学院生(非有職者)無料

申込〆切： 2022年5月13日(金)

問合せ先： japanslnetwork@gmail.com



第6回 サービス・ラーニング全国フォーラム プログラム

9:20	ログイン受付開始(Zoom)
9:30- 9:40	開会 挨拶:市川享子(日本サービス・ラーニング・ネットワーク代表、東海大学) 小島克巳(文教大学国際学部長) 司会:宮崎 猛(創価大学)
9:40- 10:10	基調講演 講演者:林 薫(文教大学国際学部)「"サービス"を問い直すーサービス・ラーニングが拓く未来」
10:10- 12:10	全体シンポジウム 「パートナーシップに基づきサービス・ラーニングをどのように実践すべきか？ ～SOFARモデルを参照にして～」 サービス・ラーニングにとって重要な「パートナーシップ」を、5つのアクターで構成される10の関係性から捉えるSOFARモデルを使い、小学校、中学・高校、大学の各実践を評価します。その上で、望ましいサービス・ラーニングの実践のあり方をパートナーシップの観点から再検討していきます。 シンポジスト 倉本哲男(静岡文化芸術大学) 「小学校の事例に学ぶ:カリキュラム・マネジメントの視点から」 シンポジスト 石筒 覚(高知大学) 「中学・高校の事例に学ぶ:国際バカロレアプログラムにおけるサービス・ラーニング」 シンポジスト 秋吉 恵(立命館大学) 「大学の事例に学ぶ:コミュニティ・エンゲージメントの視点から」 コーディネーター:唐木清志(筑波大学)
12:10- 14:00	休憩 12:30-13:00 JSLN総会開催
14:00- 15:50	分科会 (*はブレイクアウトルームあり) 第1分科会「コロナ禍のサービス・ラーニングから得た気づき」(*) コロナ禍で、サービス・ラーニングのプログラムにはどのような変化が余儀なくされたのか。それにより、むしろ私たちの学びや関係性にどのような発見があったのか。本分科会では、学内・国内・海外をフィールドに、コロナ禍でのサービス・ラーニングから得た気づきについて探ります。 報告者 山下美樹(麗澤大学) 「足元の課題をテーマとしたCOIL型社会貢献活動」 報告者 杉原真晃(聖心女子大学)「高齢社会の中における遠隔・アナログでの コミュニケーションの意義」 報告者 秋元みどり(青山学院大学)「カンボジアとのオンライン日本語レッスン活動」 コーディネーター 渡邊暁子(文教大学)
	第2分科会「初等・中等教育におけるサービス・ラーニングの可能性」 日本の初等・中等教育においては、総合的な学習(探究)の時間や特別活動を活用して、サービス・ラーニングと解釈しうる実践は数多く存在しますが、意識的にサービス・ラーニングを実践している教員は極めて少ないのが現状です。本分科会では、サービス・ラーニングを意識しながら授業づくりを進め、授業実践を展開している初等・中等教育の教員に自らの実践を報告していただきます。 報告者 坂本晃一(東京都墨田区立菊川小学校) 報告者 高松森一郎(ぐんま国際アカデミー中高等部) コーディネーター 石筒 覚(高知大学)・唐木清志(筑波大学)
	第3分科会「実践・研究交流」 サービス・ラーニングに関わる実践や研究を持ち寄り、会員間で交流を深めます。会員が蓄積している実践や研究などを持ち寄りながら、サービス・ラーニングの今と未来について語り合います。 報告者 川田麻記(桜美林大学)・横溝亮(横浜市立鶴見小学校・日本語支援拠点施設 鶴見ひまわり) 「社会変容を促すサービスラーニングを目指して ～公立小学校における外国につながる子どもへの支援体制づくりの事例から～」 報告者 馬場洸志(梅光学院大学)「ヒップホップの要素を活用したサービス・ラーニング実践の開発」 コーディネーター 山口洋典(立命館大学)
15:50- 16:30	全体共有・閉会 司会:宮崎 猛(創価大学) 挨拶:渡邊暁子(第6回全国フォーラム実行委員長、文教大学)

※フォーラム後に参加者同士で交流する「フリーセッション～感想交流と今後の展望を語る」を開催します。時間は16:30-17:00の予定です。こちらも、是非ご参加ください。

【備考】

参加費納入方法

一般非会員で有職者の方は、事前に参加費2,000円を納入願います。非有職者の大学生・大学院生は参加費無料です。

参加申込フォームにて、PayPalを利用してのクレジットカード決済、もしくは銀行振込のどちらかをお選びください。ご入金後の返金は致しかねます。ご了承ください。

<問合せ先> JSLN事務局(japanslnetwork@gmail.com)

1) PayPalの利用方法

- PayPalのご利用は、PayPalアカウント登録(無料)が必要です。
- PayPalご利用の場合、参加費送金にかかる手数料をJSLN側で負担します。
- 事務局よりメールで請求書をお送りします。
- メール内の「請求書の表示および支払い」ボタンをクリックして請求書を開き、請求書内の支払いボタンをクリックして手続きを進めてください。
- 登録者の方のクレジットカード番号などの財務情報は、JSLNには開示されませんのでご安心ください。また、画面に「請求書送付先」という記載がありますが、実際にはJSLNから請求書を郵送することはありません。
- 支払い完了後、PayPalから支払完了メールが自動で届きます。

2) 銀行振込の利用方法

- 下記口座にお振込をお願いします。
- 銀行振込の場合、参加費(2,000円) + 振込手数料をご負担願います。

ゆうちょ銀行

店名:0一八(ゼロイチハチ) 店番:018

預金種目:普通預金 口座番号:7264312

口座名:日本サービス・ラーニング・ネットワーク

※領収書発行について

PayPal・銀行振込とも、領収書をご入用の場合は、事務局へメールでご連絡ください。

全体シンポジウムの録画記録の限定公開

全体シンポジウムの発表部分を録画します。会員でフォーラム参加にお申し込みの方、非会員で参加費を納入の方のなかで、当日やむを得ず欠席された方には録画を限定公開いたしますので、ご連絡ください(公開開始日より2週間程度)。

画面上のカメラ

画面上のカメラに関して、分科会1では、ブレイクアウトルームがあります。その際は、みなさまの活発な交流を促進させるため、原則的にカメラをオンにしてください(差し支えがある方はオフのままでも大丈夫です)。